

地域密着型サービス自己評価票

- ・ 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- ・ 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 19 年 11 月 16 日
事業所名	グループホーム「かがやき」(ホーム1)
事業所番号	2371400793
記入者名	職名 管理者 氏名 小林 三七子
連絡先電話番号	052-625-6673

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	オープン当初より地域とのかかわりを大切にした理念を基にして、町内会への加入、行事への参加、かがやきニュースの配布など積極的なかかわりを実践してきている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月2回定期的に職員会議等を開催して、理念を確認しあい日々の実践を積み重ねている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	毎月ホームの情報誌である「かがやきニュース」を家族・地域に配布し、当ホームの理念を繰り返し伝える努力をしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	開所以来、日常的に散歩にでかけています。その積み重ねによって地域の皆さんと気楽に挨拶を掛け合う関係ができあがってきている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、地域の行事への参加を始めとして地域の人たちとの交流を大切にしている。	○ 地域子ども達を招いて「おやつづくりの会」を計画している。また、地域の人たちと共に「ガレッジセール」を開催したいと思っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	市民団体の当ホーム見学会などを積極的に受け入れてきている。併せて、ヘルパー講座や看護学科の学生の実習を受け入れ、認知症高齢者の理解を深める努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を、全職員で話し合い改善策を検討するなど、その共有化を図っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でだされた意見、評価を職員会議等で報告し、必要な改善策を協議するなどサービス向上に生かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が名古屋市のリーダー研修のハシリーターとして参加するなど、グループホーム全体のサービス向上に一定貢献をしている。その成果と教訓を今後当ホームのサービス向上に繋げていきたいと考えている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在「成年後見制度」を利用している方がお見えになります。今後利用される方が増えていくものと思います。そのため一層研修に参加するなど職員の学習を深めていきたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加するなど、虐待についての問題意識を持ち職員会議等でも学習・討議を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・重要事項説明書を家族に対して読みながら丁寧に時間をかけて説明をして同意を得ている。退所についても家族・関係者（主に医療関係者）との懇談を重ねながら行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「ホームの主人公は利用者の皆さん」を理念にして日常的に利用者の皆さんのご意見を尊重している。職員は、選択肢のある言葉がけを心がけている。週1回の献立会議では、献立だけでなく日常生活全般についても相談をしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月「かがやきニュース」をご発送している。また、個別に報告・相談を日常的に行い家族の皆さんとのコミュニケーションを図っている。家族旅行や誕生会への参加を積極的に呼びかけている。衣替やおむつなど日用品をホームにお持ちいただくことによってホームへの訪問の機会を多く持っていただき職員との交流・懇談の機会を作っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進員会に家族会の代表が参加している。家族の皆さんから出された意見は、職員会議等で報告・協議し課題解決のための取組みをしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全職員が参加する「ケース検討会議」少人数での懇談会形式による「職員懇談会」を定期的で開催している。また、問題によってはアンケートを取るなどして職員間の意見の交流を図り運営に反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	夜勤者以外にも宿直者を配置したり、食事の時間を中心とした職員を配置するなど一人一人の生活パターンに合わせたシフト勤務を組み立てている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動や離職には気を配り入居者の皆さんが混乱しないようにしている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時には、他のグループホームへ実習に行っている。県・市の研修に参加させたり、ケース検討会議を活用して講師を招いたり、輪読形式の職場内学習を実施したりして、研修を重視した取組みを行っている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者は県GH協会の「調査・研究委員会」に所属、また、市GH協議会では副会長の任に就いていて、他の同業者との交流を積極的に図っている。職員も県市の協会が主催する研修等に参加して他の同業者との交流・連携を図る努力をしている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	介護ストレスにかかわる職員学習会を開催して、介護ストレスは有るもの。として、毎月2回の会議の場を活用したり、個別の懇談・交流を日常的に管理者・主任は心がけている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者は県GH協会の「調査・研究委員会」に所属、また、市GH協議会では副会長の任に就いていて、他の同業者との交流を積極的に図っている。職員も県市の協会が主催する研修等に参加して他の同業者との交流・連携を図る努力をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者は県GH協会の「調査・研究委員会」に所属、また、市GH協議会では副会長の任に就いていて、他の同業者との交流を積極的に図っている。職員も県市の協会が主催する研修等に参加して他の同業者との交流・連携を図る努力をしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者は、職員全員に目を行き渡らせ「職員が、まず、生き生きすることが、入居者の皆さんが生き生きすること」と職員個人の長所を伸ばすよう努力をしている。また、介護福祉士やケアマネジャー等の資格取得に支援している。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前にホームの見学を実施していただいたり、実際に体験入所をしていただく機会を設けてご本人の心配や不安を解消するように心がけている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前には、ご家族からご本人の状況をお伺いしている。入所後はご家族との連絡をこまめに行い、一日でも早くホームの生活になじんでいただけるように支援をしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、人生の先輩である入居者の皆さんに料理・洗濯などの生活の場面で教えていただく・・・という姿勢で、ケア（介護）に取り組んで共に生活を作り出す関係を大切にしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の悩みや思いをお伺いする事を大切にしている。その上で今後について共に相談しあうことのできる関係づくりを大切にしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族が、気軽にホームに訪問できるように努力をしている。誕生会や家族旅行などの行事や日常におむつや、衣類などを持ってきていただける関係作りに努力をしてご家族とご本人が疎遠にならないようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の親戚や友人の方が、ホームを訪ねてみえたときは、歓迎ムードを高めるようにしている。居間での歓迎と自室での語らいの時間を大切に引き続いて訪問したくなるように配慮をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は、入居者の皆さんの人間関係を把握しており、掃除や洗濯、食事づくりなどの生活場面や、フラダンスや習字などのレクリエーション活動での助け合いや人間関係づくりの支援を行っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所されたご家族の方が、ボランティアで定期的にホームを訪問していただいたりとの関係を大切にしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、入居者の皆様の思いを大切にしている。日頃何気ない会話にも気を配り、ご本人の思い、希望を聞き逃さないように努力をしている。また、日常の会話から本人の望むことを把握するように努めている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご本人、ご家族から生活歴、価値観について時間をかけて聞き取りを行っている。入所後も誕生会などでこれまでの生活のなかで写した写真などをスライドにして紹介している。そうした機会を利用するなどして継続的に聞き取りを行っている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	24時間シートの作成などを活用して、1日の生活パターンを把握するように努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の希望やご家族の希望を取り入れながら介護計画を作成している。最終的には、ご家族、ご本人が参加された会議で確定している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回全職員参加のもとで開催されるケース検討会議で、現状に見合った介護計画の見直しをしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や業務日誌などを通して職員間で情報を共有しあい、毎日のケアや、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急時の対応については、「医療連携体制」を軸にしながらサービス実施に取り組んでいる。地域の社会資源の活用については今後の課題である。		
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地元中学校の見学実習を受け入れている。運営推進委員会には、地元区政協力委員会の代表、民生委員会の代表にご参加いただいているので今後、大切にしていかなければいけない課題となっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の皆様のご希望に応じて地元の「美容院」を利用している。朗読や合唱指導、絞り・編物などの入居者の皆様の生活を豊かにするための取組みなどのボランティアの受け入れを現在行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	毎月当ホームの情報ニュースの「かがやきニュース」を直接お届けし、情報提供を行っている。具体的な協働関係は今後の課題である。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の皆様が希望する医療機関に受診している。医療連携で医師や看護師の定期的訪問、必要に応じての訪問受診をお願いするなど、必要な支援体制を確立する努力を続けている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて、認知症専門医の受診ができるようにしている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携によって24時間体制で相談・連絡ができ、併せて週に1回看護師の訪問などにより、入居者の皆さんの健康管理を行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	職員、あるいは入居者の皆さんと一緒に「お見舞い」にいたり、ご家族も参加された病院とのカンファレンスを行い早期退院にむけた取り組みを行っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療関係者、家族、職員との連携、話し合いを大切にして情報や今後の方針を共有している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	職員を対象にした看護師による「ターミナル勉強会」を開催して、急変時にも柔軟に対応できるようにした。家族、医師・看護師との密接な連携によって安心して暮らしていけるサポート体制を作り上げてターミナル期を乗り切った。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移住先施設などの要請に積極的に答えて、アセスメント、ケアプラン等の引き継ぎをおこなっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員討議資料などを、必要に応じて個人の名前はイニシャルで書くなどプライバシーに配慮している。併せて、個人のデータを職員室から持ち出さないように注意している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の皆様おひとりお一人に合わせた説明をゆっくりとわかりやすく、選択肢のある声かけ、お話するように努力している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望に添った日常を送れるように支援している。特に散歩・買物などは、希望を聞いたりご様子をみながら声かけをしながら出かけている。		
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	多くの入居者の皆様が、ご家族と相談されながら、近くの美容院に出かけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、入居者の皆様が週1回「献立会議」を行い、入居者に皆様の好み、希望によって作られている。食事作りは、買物から配膳、食事後のあとかたづけまで入居者の皆様が主人公としてできるように支援を行っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	朝食は、希望に合わせてパンとご飯を用意するなど、ご本人の嗜好に基づいた要望にお答えするように配慮している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排泄パターンを把握してトイレ誘導を必要に応じて行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴支援ができるように職員の勤務がシフトされている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼間の活動の充実が安眠を保障する。との考え方で昼間の活動に心がけている。利用者に合わせて休息の時間を確保している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生きがい・役割のある生活づくりを目標にして支援をしている。雑巾づくり、フキン作り、などを通してバザーへの出品をして社会的な繋がりも大切にしている。喫茶店などへも積極的に出かけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談のうえ状況に合わせて、金銭管理を入居者ご本人が行っている。買物はホームの買物時に、また、個別の要請に応じて出かけている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブ、買物や喫茶店、コンサートなど外出の機会をたくさん作って、入居者の皆様の豊かな生活と、日常生活のメリハリを作る努力をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	喫茶店や食事など、ご家族との外出を応援している。	○	お墓参りにいきたいとのご要望に答えて、ご家族と密接な相談を積み重ねながら実現して行きたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	気軽に電話やお手紙を繋いでいる。お客さまの来訪時は自室でゆっくりと過ごしていただくように配慮している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	「連絡なしで、気軽に訪問を」「短い時間でも回数を多く訪問を」とご家族の皆さんにお願いしている。気軽に立ち寄って貰える雰囲気づくりに努力している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修にも参加し、職員会議等で学習をしている。身体拘束だけでなく、言葉の暴力についても学習している。自覚せず無意識で身体拘束（虐待）のないように努力している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	なぜ「鍵をかけない」ケアが必要か。なぜ、「生きがいと役割をもった」日中の活動の充実が必要か。を職員会議等で討議し、全職員共有の意識とすべく改めて努力をしている。	○	なぜ、鍵をかけないケアを実践しているのか、ご家族に改めてご理解、ご協力をいただくための話し合いを行う予定です。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に職員は、入居者の皆様の居場所を把握するように努力し、安全に配慮するよう努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁や薬品のような危険なものは、職員が管理・保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハットを使用し、事故防止に努めている。立ち上がりの時に店頭の危険がある方の場合、立ち上がる前のサインを職員で共有し、転倒防止に心がけてている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年1回、パート職員も含め全職員が応急手当の講習会に参加している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署に届けた「火災避難訓練」を実施してきている。今年度初めて地域住民にも呼びかけて実施した。運営推進委員会の助言も得て、地域ぐるみの避難訓練を今後実施をしていきたい。	○	地域の皆様との繋がりを一層深め、災害時に協力をお願いできるような関係づくりに取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切に した対応策を話し合っている	日常的に、ご家族との連絡・連携を密にして入居者の皆様のリスク（危険）について話し合い、問題点の共有化に努めている。	○	家族懇談会の活動を充実発展させて、必要な情報の共有化を図りたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	受診記録やケース記録、また、申し送りにおいて必要な情報の共有化に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療連携によって、日常的に看護師への相談体制は出来ている。個別には、受診報告書に処方箋を添付して服薬の情報を共有して服薬支援に取り組んでいる。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	散歩や外出などの運動や繊維質の多い食材の活用など献立を重視している。医師・看護婦の指導のもとに便秘薬の管理にも努め、排便で快適な生活の保障を心がけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	職員は、口腔ケアの重要性を理解して日常的に口腔ケアに取り組んでいる。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の皆様お一人お一人の個人の食事量を把握している。医師の助言に基づいてラコール（補助食品）の補給の活用もしている。管理栄養士の助言・指導も受けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防のために、マニュアルを作成し、職員に徹底を図っている。また、インフルエンザの接種を呼びかけている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食虫読予防のため、入居者の皆さんと職員が看護師さんによる「食中毒学習会」を開いている。併せて手洗い消毒や水回り等の清潔に心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	樹木や季節の草花を植えて訪問しやすい環境を作っている。また、玄関は、入居者の皆様の絵や習字などの作品を展示して親しみやすい雰囲気を作っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は、行事等の写真を貼りだし、合わせて入居者の皆様の絵や習字などの作品を展示して親しみやすい雰囲気で居心地のよい空間を作り出す努力をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場所には、ちぎり絵やカレンダーなど共同の作品を展示するなどして親しみやすく過ごしやすい環境を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の皆さんが、居室で思い思いに過ごせるように、ご家族の皆さんと相談してなじみの家具や備品、誕生会などの色紙や記念品を飾っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝窓の空気の入替えに留意している。また、空調機の風が直接入居者の皆様にかからないように温度管理・換気管理に努めている。冬季は床暖房を中心に温度管理・喚起管理を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除、洗濯、食事づくりなどを「生活リハビリ」と位置づけて、床をバリアフリーにして、全館手すりをつけるなどして、入居者の皆様が主人公として生活が作りだしていけるように環境整備に努めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には、表札（名前）やのれんをつけて個性を大切にした自立したいる。トイレには案内を貼ったりして入居者の皆様が混乱せずに穏やかに生活を送っていただける様に努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭やベランダの行き来が自由になっており、草花の手入れが気軽に行えるようになっている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

絞りや朗読、習字に合唱などの先生を招いて作品づくりにとりくんでいます。
 近くの大高公園への散歩やドライブなど昼間の活動の充実を図っています。
 昼間の活動の充実で夜の睡眠を保障する。
 いい循環で「かがやいた」生活の実現をめざしています。